研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 6 月 2 8 日現在

機関番号: 15401

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2019~2022

課題番号: 19H01690

研究課題名(和文)海外留学プログラムの効果検証:大規模パネルデータによる学生の心理特性の変化の分析

研究課題名(英文)Assessment of Study Abroad Programmes - Transformation of Students assessed by BEVI(Beliefs, Events and Values Inventory) test

研究代表者

西谷 元 (Nishitani, Hajime)

広島大学・人間社会科学研究科(社)・名誉教授

研究者番号:80208181

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、当初、海外留学プログラムが、学生に対し、どのような分野でどのような影響を、コンピテンシーレベルでもたらすのか否かを、非参加者グループも対象群としつつ、大規模データに基づき、検証することを目的として開始した。対面留学がCOVID19の影響で全面的に中止され、これらに関するデータを収集が不可能となった。

他方、本研究期間中の増加し、また研究期間の大部分においてこれらだけで行われてきた、COIL/VEを含む多様な海外留学/海外交流プログラムが学生に与えたインパクトを、定量的及び定性的評価手法により明らかにし、研究期間前より収集していた、対面留学との比較研究も同時に実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の字術的意義や社会的意義 2023年3月、政府は2033年までに、留学生受け入れ40万人、海外派遣50万人目標を表明した。今回の計画においても、アウトプット指標に重点が置かれ、留学の効果の検証またプログラムの質保証ついての視点は欠けている。これまでの留学・国際プログラムの効果測定に関する研究は多数存在するが、未だに満足度調査また主観的評価をプログラム終了後に求めるものが大部分である。 本研究では、学生個人、留学プログラムまた非参加者を含む大学全体のレベルでのコンピテンシーの変化を、多様な大学・留学・国際プログラムをフィールドとして、客観的に測定・分析することにより、アウトカム・変容を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文): This research was initially initiated to examine how study abroad programs have an impact on students, at the competency level, based on large data sets. Face-to-face study abroad programs were completely discontinued due to COVID19, making it impossible to collect data on these programs.

On the other hand, we were able to use quantitative and qualitative evaluation methods to determine the impact on students of various study abroad/exchange programs, including COIL/VE, which increased during the study period and have been conducted exclusively during most of the research period. We were also able to conduct a comparative study with face-to-face study abroad programs, which had been collected prior to the research period.

研究分野:高等教育

キーワード: グローバル人材 異文化間教育/国際教育 COIL/VE/ヴァーチーバル・コンピテンシー 客観的効果測定 教育的介入 BEVI COIL/VE/ヴァーチャル・エクスチェンジ 異文化理解 グロ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

政府は、「留学生 30 万人計画」として、平成 32 年を目途に 30 万人の留学生受入れを目指している。また平成 25 年に閣議決定された「日本再興戦略」や「第二期教育振興基本計画」において、平成 32 年までに大学における日本人の海外留学者数を倍増(6万人から 12 万人)する目標を掲げている。これらの計画において、留学の効果の検証、例えば留学の結果としてどのように学生が変化したのか、またプログラムの質保証をいかに行うのかについての視点は欠けている(若者の海外留学促進実行計画 2014)。

他方、留学・国際プログラムの効果測定に関する研究、また海外留学の成果に関する先行調査は多数存在する(日本学生支援機構 2015、横田 2016)。しかしながら、これらはアンケートによる満足度調査、また学生による主観的評価をプログラム終了後に求めるものであり、特定の学生がどのように変化したのかを客観的に測定したものではない。プログラムの期間等、学生の属性を考慮した分析もあるが、上記の問題から逃れるものでなく、またプログラム内容・学習時間数等を考慮しておらず、学生の変化を十分に可視化できていない。

2.研究の目的

本研究の目的は、グローバル化今日求められているコンピテンシーまた思考態度を、 どのような留学・国際プログラムにより有効に涵養することができるのかを明らかにす ることにある。

3.研究の方法

この「問い」に対して、本研究では、国内外の計7大学における多様な留学・国際プログラムを対象とし、留学・国際プログラムが及ぼす変化を客観的に測定し、実証的な研究方法を用いて分析することにより、「解」を導く

客観的測定を行うためのテストとしては、The Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI) を用いた。BEVI は教育、研究、からリーダーシップ・プログラムやメンタル・ヘルスに至るまで、様々な場面で利用することのできる、柔軟性に富んだ、強力な分析ツールであり、これにより、学習・成長・変化のプロセスや成果を理解し、それらを促進させることが可能となった。BEVI は、25 年以上にわたる米国内また国際的な研究と実践、心理学的特性を基盤として開発され、「誰が、何をなぜまたどのような状況で学習したのか」を明らかにすることができる、質的また量的質問双方を含む混合メソッドである。BEVI は、相互に関連する尺度相互間の関係について高度な分析を可能とした。

4.研究成果

本研究は、当初、海外留学プログラムが、学生に対し、どのような分野でどのような影響を、コンピテンシーレベルでもたらすのか否かを、非参加者グループも対象群としつつ、大規模データに基づき、検証することを目的として開始した。対面留学が COVID19 の影響で

全面的に中止され、これらに関するデータを収集が不可能となった。他方、本研究期間中の増加し、また研究期間の大部分においてこれらだけで行われてきた、COIL/VE を含む多様な海外留学/海外交流プログラムが学生に与えたインパクトを、定量的及び定性的評価手法により明らかにし、研究期間前より収集していた、対面留学との比較研究も同時に実施することができた。

各大学が取り組んできた、COIL/VE を含む多様な海外交流プログラム、学部別データも含め、約 1 万 5 千件のデータを収集した。その結果、尺度 10. 情動調律(Emotional Attunement)尺度 14. Gender Traditionalism、尺度 15. 社会文化的オープン性、尺度 17. Global Resonance について、男女間において、T1 時点で意味のある差異が存在することが、繰り返し証明された。また、尺度 7. Basic Determinism、尺度 8. Socioemotional Convergence、尺度 15. Sociocultural Openness、尺度 17. Global Resonance について、理系学部と文系学部において、T1 時点で意味のある差異が存在することも明らかとなった。

これらをもとに、客観的な変化量とともに、T1 時点における教育的介入手法開発などに も用いることのできる知見を得ることができた。

引き続き、大規模個票データを継続的に収集するとともに、調査に参加する大学を拡大する。他大学の研究も加えた研究会を継続的に実施し、(1)日本人学生全体の平均データ(性別など背景情報を含む)の作成、(2)これらのデータに基づく学部/専門分野間の差異の明確化、(3)入学時から卒業までのより長期的な変化の解明、(4)上記データに基づく個別留学・教育プログラムの特徴、効果の解明、(5)異なる成長、変化に適切な教育的介入手法の開発、を行う。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 8件)

CARBONIA, HILLI () BENTING OIL) DENVIE III , DOG 17 / CA OIL)	
1.著者名 Blevins Benjamin K.、Kawata Keisuke	4.巻 2019
2.論文標題 The orphan impact: HIV-AIDS and student test scores from sub-Saharan Africa	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Educational Review	1 ~ 24
 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.1080/00131911.2019.1689100	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1.著者名 北出慶子	4.巻 31巻3号
2 . 論文標題 外国人・留学生支援ボランティア活動を通した学びと課題 日本語教育人材育成のための多文化サービ ス・ラーニング開発に向けた系統的レビューの試み	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 立命館言語文化研究	6.最初と最後の頁 19-38
立即皓白丽文化则九	19-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim	4.巻 8
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey	8 5.発行年 2019年
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017	5 . 発行年
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education	8 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 117-133
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2. 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3. 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス	8 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109	8 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2. 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3. 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス	8 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 池田佳子 2 . 論文標題 外国人留学生のキャリア支援・就職支援のための日本語教育-座学も実践も取り込む「総合的教育プログラ	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有 国際共著 該当する
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 池田佳子	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 8
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 池田佳子 2 . 論文標題 外国人留学生のキャリア支援・就職支援のための日本語教育-座学も実践も取り込む「総合的教育プログラム設計」- 3 . 雑誌名	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 8 5.発行年 2019年
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 池田佳子 2 . 論文標題 外国人留学生のキャリア支援・就職支援のための日本語教育-座学も実践も取り込む「総合的教育プログラム設計」- 3 . 雑誌名	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 8 5.発行年 2019年
Akira Arimoto, Tsukasa Daizen, Futao Huang, & Yangson Kim 2 . 論文標題 Japanese Doctoral Students' Career Plans and Research Productivity: Main Findings from a 2017 National Survey 3 . 雑誌名 International Journal of Chinese Education 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22125868-12340109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 池田佳子 2 . 論文標題 外国人留学生のキャリア支援・就職支援のための日本語教育-座学も実践も取り込む「総合的教育プログラム設計」- 3 . 雑誌名 留学交流 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 117-133 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 8 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無

西谷 元 596 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6 . 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス カープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 108 1 . 著者名 西谷 元 4 . 巻 108 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 Research Outreach 6 . 最初と最後の頁 66-70 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有		
2. 論文標題 「今回人留学生のための就職促進プログラムについて』 3. 雑誌名 広域連合ニュースレタ・ 「期勤論文の001(デジタルオブジェクト選別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない。又はオープンアクセスが困難 1. 差者名 東央光代・労闘千重 2. 論文標題 世界の変え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス:BEVIの結果に基づく分析 3. 雑誌名 清解論文の001(デジタルオブジェクト選別子) なし オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 百合 元 2. 論文標題 広場大学における英語教育 5. 発行年 2019年 1. 著者名 百合 元 2. 論文標題 広場大学における英語教育 5. 発行年 2019年 1. 著者名 百合 元 2. 論文標題 広場大学における英語教育 4. を 5. 第7年 2019年 1. 著者名 百合 元 2. 論文標題 広場大学における英語教育 4. を 5. 第7年 2019年 1. 著者名 百合 元 2. 論文標題 広場大学における英語教育 4. を 5. 第7年 2019年 2122 223 2422 2422 252 263 2727 266 2727 2727 2727 2727 2727	1.著者名	4 . 巻
**の時見人留学生のための就職促進プログラムについて。 2019年 3、制証名 広域連合ニュースレタ・ 類別論文ののロ(デジタルオプジェクト識別子) なし 富統の有無 無 1、著者名 東矢光代・雷脚千型 4、巻 28 2、論文権題 世界の投入方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス:BEVIの結果に基づく分析 5、発行年 2019年 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 6、最初と最後の頁 23・46 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 23・46 3、神話名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 国際共著 4・巻 5・総の可 23・46 4 、巻 66 と 700日 2 ・	池田佳子	9
**の時見人留学生のための就職促進プログラムについて。 2019年 3、制証名 広域連合ニュースレタ・ 類別論文ののロ(デジタルオプジェクト識別子) なし 富統の有無 無 1、著者名 東矢光代・雷脚千型 4、巻 28 2、論文権題 世界の投入方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス:BEVIの結果に基づく分析 5、発行年 2019年 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 6、最初と最後の頁 23・46 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 23・46 3、神話名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 国際共著 4・巻 5・総の可 23・46 4 、巻 66 と 700日 2 ・		
**の時見人留学生のための就職促進プログラムについて。 2019年 3、制証名 広域連合ニュースレタ・ 類別論文ののロ(デジタルオプジェクト識別子) なし 富統の有無 無 1、著者名 東矢光代・雷脚千型 4、巻 28 2、論文権題 世界の投入方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス:BEVIの結果に基づく分析 5、発行年 2019年 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 6、最初と最後の頁 23・46 3、雑誌名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 23・46 3、神話名 高語文化研究紀要: Seripsinus (玩球大学国際地域創造学部紀要) 国際共著 4・巻 5・総の可 23・46 4 、巻 66 と 700日 2 ・	2 . 論文標題	5 . 発行年
3 ・ 献誌名 広域連合ニュースレタ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
広域連合ニュースレタ・	/T凹八田ナエU/LのUがN級に座ノロソノムに /がしき	20194
広域連合ニュースレタ・	3. thistog	
据額論文の001(デジタルオブジェクト識別子)		り. 取例と取後の貝
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	広域連合ニュースレタ-	-
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	& O	////
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	+ = 1\-7\-7\-7	三
1 ・著名名 東矢光代・常問干責 2 ・		国际共者
東矢代・常筒千夏 2 2 ・漁女標題 世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス: BEVIの結果に基づく分析 5 ・飛行年 2019年 3 ・雑誌名 まは、その予定である 6 ・最初と最後の頁 23・45 1機載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし ・ 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1、著者名 西谷 元 4 巻 598 2・論文標題 広島大学における英語教育 5 ・第行年 2019年 3・雑誌名 オープンアクセス 6 ・最初と最後の頁 24・28 オープンアクセス 国際共著 1・著名名 西谷 元 4 巻 108 2・論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 ・発行年 2019年 3・雑誌名 Research Outreach 6 ・最初と最後の頁 6・・元の有無 6・・プンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
東矢代・常筒千夏 2 2 ・漁女標題 世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス: BEVIの結果に基づく分析 5 ・飛行年 2019年 3 ・雑誌名 まは、その予定である 6 ・最初と最後の頁 23・45 1機載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし ・ 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1、著者名 西谷 元 4 巻 598 2・論文標題 広島大学における英語教育 5 ・第行年 2019年 3・雑誌名 オープンアクセス 6 ・最初と最後の頁 24・28 オープンアクセス 国際共著 1・著名名 西谷 元 4 巻 108 2・論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 ・発行年 2019年 3・雑誌名 Research Outreach 6 ・最初と最後の頁 6・・元の有無 6・・プンアクセス 国際共著		
東矢代・常筒千夏 2 2 ・漁女標題 世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス: BEVIの結果に基づく分析 5 ・飛行年 2019年 3 ・雑誌名 まは、その予定である 6 ・最初と最後の頁 23・45 1機載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし ・ 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1、著者名 西谷 元 4 巻 598 2・論文標題 広島大学における英語教育 5 ・第行年 2019年 3・雑誌名 オープンアクセス 6 ・最初と最後の頁 24・28 オープンアクセス 国際共著 1・著名名 西谷 元 4 巻 108 2・論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 ・発行年 2019年 3・雑誌名 Research Outreach 6 ・最初と最後の頁 6・・元の有無 6・・プンアクセス 国際共著	1.著者名	4 . 巻
2		
世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス: BEVIの結果に基づく分析 3.雑誌名 言語文化研究紀要: Scripsimus (琉球大学国際地域創造学部紀要) 4. 最初と最後の頁 23.445 四際共著 カーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著名名 西台 元 2. 論文標題 広島大学における英語教育 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 4. 表表の有無	不入ルル・田門 支	20
世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス: BEVIの結果に基づく分析 3.雑誌名 言語文化研究紀要: Scripsimus (琉球大学国際地域創造学部紀要) 4. 最初と最後の頁 23.445 四際共著 カーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著名名 西台 元 2. 論文標題 広島大学における英語教育 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 4. 表表の有無	o *A-LEGE	F 38./= /-
3 . 雑誌名	·····	5.発行年
言語文化研究紀要: Scripsinus(琉球大学国際地域創造学部紀要) 23 - 45 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無無 オープンアクセス 国際共著 1. 著者名 西谷 元 4. 巻 596 2. 論文標題 広島大学における英語教育 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6. 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 無	世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス : BEVIの結果に基づく分析	2019年
言語文化研究紀要: Scripsinus(琉球大学国際地域創造学部紀要) 23 - 45 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無無 オープンアクセス 国際共著 1. 著者名 西谷 元 4. 巻 596 2. 論文標題 広島大学における英語教育 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6. 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 無	**	
言語文化研究紀要: Scripsinus(琉球大学国際地域創造学部紀要) 23 - 45 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無無 オープンアクセス 国際共著 1. 著者名 西谷 元 4. 巻 596 2. 論文標題 広島大学における英語教育 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6. 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 無	3、雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 3 . 雑誌名 IDE現代の高等教育		
### オープンアクセス	ロ田ス10切九紀女 . ottipsiiius(城球人子国际地域剧逗子部紀安)	Z3 -43
### オープンアクセス		
### オープンアクセス		
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 3 . 雑誌名 IDE現代の高等教育 4 . 巻 なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 西谷 元 1 . 著者名 西谷 元 4 . 巻 108 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 24-28 国際共著 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 24-28 本ープンアクセス 国際共著 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 66-70 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 6 . 最初と最後の頁 66-70 最載論名 Research Outreach 5 . 発行年 2019年 2 . 自動と最後の頁 66-70 最載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 有 オープンアクセス 国際共著	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 3 . 雑誌名 IDE現代の高等教育 4 . 巻 なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 西谷 元 1 . 著者名 西谷 元 4 . 巻 108 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 24-28 国際共著 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 4 . 巻 108 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 24-28 本ープンアクセス 国際共著 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 66-70 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 6 . 最初と最後の頁 66-70 最載論名 Research Outreach 5 . 発行年 2019年 2 . 自動と最後の頁 66-70 最載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 有 オープンアクセス 国際共著	なし	無
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1. 著書名 西谷 元 4. 巻 596 2. 論文標題 広島大学における英語教育 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6. 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 面際共著 - オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著書名 西谷 元 2. 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5. 発行年 2019年		
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1. 著書名 西谷 元 4. 巻 596 2. 論文標題 広島大学における英語教育 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6. 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 面際共著 - オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著書名 西谷 元 2. 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5. 発行年 2019年	オープンアクセス	国際共著
西谷 元 596 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6 . 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のD01 (デジタルオブジェクト識別子) なし 直読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オーノノアソセ人としている(また、ての予定である)	-
西谷 元 596 2 . 論文標題 広島大学における英語教育 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6 . 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のD01 (デジタルオブジェクト識別子) なし 直読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
2 . 論文標題 広島大学における英語教育 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6 . 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 1 . 養者名 西谷 元 4 . 巻 108 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 Research Outreach 6 . 最初と最後の頁 66-70 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	1.著者名	4 . 巻
2 . 論文標題 広島大学における英語教育 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 6 . 最初と最後の頁 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 1 . 養者名 西谷 元 4 . 巻 108 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 Research Outreach 6 . 最初と最後の頁 66-70 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		596
 広島大学における英語教育 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 信載		
 広島大学における英語教育 3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育 信載	2 給文梅曆	5
3 . 雑誌名 I D E 現代の高等教育	·····	
IDE現代の高等教育 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	仏局大子にかける央語教育	2019年
IDE現代の高等教育 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
IDE現代の高等教育 24-28 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 オープンアクセス 国際共著 1. 著者名西谷元 4. 巻 2. 論文標題Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 5. 発行年2019年 3. 雑誌名Research Outreach 6. 最初と最後の頁66-70 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 オープンアクセス 国際共著	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	IDE現代の高等教育	
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 西谷 元 4.巻 108	= = =	
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 西谷 元 4.巻 108		
無 カープンアクセス 国際共著 カープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 西谷 元 4.巻 108	日卦於☆のDOI / ごごカリナブご - カし鉢叫フ)	本性の左征
オープンアクセス 1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3 . 雑誌名 Research Outreach 超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)-1 . 著者名 西谷 元4 . 巻 1082 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning5 . 発行年 2019年3 . 雑誌名 Research Outreach6 . 最初と最後の頁 66-70掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	なし	無
オープンアクセスとしている(また、その予定である)-1 . 著者名 西谷 元4 . 巻 1082 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning5 . 発行年 2019年3 . 雑誌名 Research Outreach6 . 最初と最後の頁 66-70掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)-1 . 著者名 西谷 元4 . 巻 1082 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning5 . 発行年 2019年3 . 雑誌名 Research Outreach6 . 最初と最後の頁 66-70掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 西谷 元 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3 . 雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著		_
西谷 元 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3 . 雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 コープンアクセス 108 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 66-70 査読の有無 有	The second (with two lives)	L
西谷 元 2 . 論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3 . 雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 コープンアクセス 108 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 66-70 査読の有無 有	4 774	A 44
2.論文標題 Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 コープンアクセス 国際共著		_
Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 国際共著	西谷 元	108
Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 国際共著		
Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 有 国際共著		
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 Research Outreach 66-70 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	2 . 論文標題	┃ 5 .発行年
Research Outreach 66-70 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著		
Research Outreach 66-70 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning	2019年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名	2019年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名	2019年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名	2019年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名	2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3 .雑誌名 Research Outreach	2019年 6 . 最初と最後の頁 66-70
	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2019年 6.最初と最後の頁 66-70 査読の有無
	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2019年 6.最初と最後の頁 66-70 査読の有無
	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2019年 6.最初と最後の頁 66-70 査読の有無 有
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2019年 6.最初と最後の頁 66-70 査読の有無 有
	Going global: How a Japanese University is revolutionising English-language learning 3.雑誌名 Research Outreach 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	2019年 6.最初と最後の頁 66-70 査読の有無 有

4 ***	1 4 44
1 . 著者名	4 . 巻
	January 2020
2.論文標題	5 . 発行年
English education reform-based on EBPM	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Open Access Government	258-260
open Access Covernment	200 200
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u> </u> 査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
西谷 元	155
2.論文標題	5.発行年
BEVI を用いた留学効果の客観的測定 - 客観的データに基づく留学プログラムの質保証 -	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
高等教育研究叢書	39-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本性の方無
掲載論文のDOT(デンダルオフシェクト識別子) なし	査読の有無 無
 オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	一 - - -
	T
1 . 著者名 西谷 元	4.巻 155
2.論文標題	5 . 発行年
EBPM に基づく学生の英語運用能力の向上 - エビデンスに基づく教育プログラムの改革・実施・成果 -	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
高等教育研究叢書	53-66
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	│ │ 査読の有無
_{匂取} 調文のDOT(デンタルオフシェクト畝加士) なし	直読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 東矢光代	4 . 巻
/N/X/UTV	2022年度版
	5.発行年 2023年
2.論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に3.雑誌名	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に	5 . 発行年 2023年
2.論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に3.雑誌名 言語学習と教育言語学	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 33-44
2.論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に3.雑誌名 言語学習と教育言語学	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に 3 . 雑誌名 言語学習と教育言語学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 33-44 査読の有無

〔学会発表〕 計38件(うち招待講演 22件/うち国際学会 25件)
1 . 発表者名 北出慶子
2 . 発表標題 多言語・多文化越境経験とライフキャリア 海外留学・就職活動経験についての語りとその意味付け
3 . 学会等名 TEAと日本語教育研究会(招待講演)
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 北出 慶子、香川 秀太、山口 洋典、義永 美央子
2.発表標題 越境による「第三の知」創造を目指した実践 交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考える
3 . 学会等名 言語文化教育研究学会 第 6 回年次大会
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 中井好男・北出慶子・大河内瞳・平野莉江子
2 . 発表標題 成長し続ける教師のための省察的実践と未来展望の創造
3 . 学会等名 言語文化教育研究学会 第 6 回年次大会
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ
2 . 発表標題 多文化理解を促すための中道的言語文化と表現の可能性 Story Circlesを通じた対話的理解の省察的実践
3 . 学会等名 国際ボランティア学会学術大会
4 . 発表年 2019年

1.発表者名 北出慶子
2.発表標題 日本教師教育のためのサービス・ラーニング科目開発 言語教師教育と市民性教育
2.
3.学会等名 第4回日本サービス・ラーニング・ネットワーク全国フォーラム(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名
Keiko Kitade
2.発表標題
Reconceptualizing language education from the perspective of learners' life transitions through the study of transnational students
3 . 学会等名
International Society for Language Studies (国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名 Tsukasa Daizen
2. 改主価語
2.発表標題 Overseas foreign students: Global trend, underlying factors and policy implication
3 . 学会等名 HIGHER EDUCATION RESEARCH ASSOCIATION(国際学会)
4 . 発表年 2019年
2010—T
1.発表者名 大膳 司
2.発表標題
2 . 先衣標題 海外留学の効果 語学能力への効果を中心として
3 . 学会等名 グローバル人材育成教育学会中国・四国支部大会
4.発表年 2019年

1 . 発表者名 池田佳子・古川智樹・岡村アルベルト
2 . 発表標題 産学連携で進める新たな国内外国人雇用のための日本語教育
3 . 学会等名 留学生教育学会 第24回年次大会
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 池田佳子・古川智樹
2 . 発表標題 産学連携で進める新たな国内外国人雇用のための日本語教育
3 . 学会等名 産学連携で進める新たな国内外国人雇用のための日本語教育勉強会
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 IKEDA, Keiko
2 . 発表標題 Innovative Tools and Technologies
3.学会等名 3rd International Conference on Building Strategic Partnerships towards Collaborative International Learning, Mubai, India (招待講演)(国際学会) 4.発生
2019年 1 . 発表者名 池田佳子
2 . 発表標題 関西大学における効果測定手法の報告
3 . 学会等名 海外留学の客観的効果測定国際シンポジウム(招待講演)
4.発表年 2019年

1.発表者名
IKEDA, Keiko
2.発表標題
Institutionalising Virtual Exchange in Asia Pacific
3 . 学会等名
Borderless Mobility between the European Higher Education Area and Regions Beyond Symposium (招待講演) (国際学会)
Deliantices most into Structure in the Education from the Education fr
4 . 発表年
2019年
. Net vo
1.発表者名
東矢光代
2.発表標題
英語学習・国際交流に積極的 な学生のプロファイルを探る
3.学会等名
国際シンポジウム 「海外留学の客観的効果測定」(招待講演)
TIME S OF S TO 141 TO THE BOOK OF STATE OF THE STATE OF T
4 . 発表年
2019年
20134
4 35±447
1. 発表者名
西谷 元
N. de IV DV
2 . 発表標題
Understanding Students' Transformational Learning based upon BEVI
3.学会等名
RIHED.SEAMEO GMS-UC, Hanoi, Vietnum(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2019年
2000 1
1 X=20
1.発表者名
西谷 元
2. 艾生 - 福田
2.発表標題
Understanding Students' Transformational Learning through a Psychological Inventory Tool
3.学会等名
International Virtual Exchange Conference, Seatle, USA(国際学会)
4.発表年
2019年

1.発表者名
西谷 元
2. 25 主 4 振 日 古
2 . 発表標題
To Transform Higher Education, We Must Transform our Understanding of Who We Are
3.学会等名
International Association of Universities, Puebla Mexico(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
西谷 元
2.発表標題
Evaluating High Impact Learning International Summer Schools
Evaluating fright impact Ecartifing international duminer octoors
3.学会等名
QS Apple(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
西谷 元
H1 70
2 . 発表標題
Assessing International, Multicultural, and Transformative Learning: Guiding Principles and Best Practices
2. 当点生存
3 . 学会等名
International Seminar on Student Mobility and Learning Outcomes Measures 台湾国立政治大学(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2019年
4 The trade
1.発表者名
東矢光代・名護麻美
2.発表標題
オンラインによる太平洋島嶼地域SDGs短期受入プログラムの試み~日本人チューター学生の学びを中心に~
3.学会等名
日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究集会(JELES-51: 2021)
ロヤス間がはチェス ロサがは日間ナムかいロナスがバルネム (VLLLV VI. 2021)
4 7% ± 7r
4.発表年
2021年

1.発表者名 東矢光代
2 . 発表標題 言語習得論科目におけるオンラインでのグループディスカッション:ハイラブル活用のふり返りを中心に
3 . 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会(JELES-53:2023)
4 . 発表年 2023年
1.発表者名 東矢光代
2.発表標題 BEVIによる英語専門科目クラスのプロファイリング
3 . 学会等名 SIIEJ2021
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 MacLean, G.R., Toya, M., Nago, A., & Tan, S.
2 . 発表標題 Insights Derived from Two Multinational COIL Exchange Contexts.
3.学会等名 International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2021(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 Yonezawa, S. & Toya, M.
2 . 発表標題 Virtual exchange experience: International collaboration for language learning during the pandemic
3 . 学会等名 CASTEL/J 2021(日本語教育支援システム研究会第9回国際大会)(国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 西谷 元
2 . 発表標題 BEVI-jを用いた留学・学習効果の測定 - 留学プログラムの質保証・PDCA -
3 . 学会等名 SI IEJ2019(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 Hajime Nishitani, Craig N. Shealy
2 . 発表標題 Assessing Student Learning through COIL
3 . 学会等名 U.SJapan COIL Initiative, American Council on Education, Washington DC, USA(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 Hajime Nishitani, Craig N. Shealey
2. 発表標題 Understanding Students' Transformational Learning through Virtual Exchange
3 . 学会等名 BEVI ACE Seminar(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 西谷 元
2 . 発表標題 BEVI-jを用いた留学・学習効果の測定 - 留学プログラムの質保証・PDCA -
3 . 学会等名 アメリカ短期語学研修情報フォーラム(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2019年

1.発表者名
Craig N. Shealy, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani,
3 プレ士 4班日本
2 . 発表標題
IVEC BEVI COIL Research Project: Understanding Students' Transformational Learning through a Psychological Inventory Tool
WAR E
3 . 学会等名
International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2019(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
Craig N. Shealy, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Don Bysouth
2.発表標題
The COIL BEVI Project: Evaluating the Impact of Virtual Exchange through Research and Practice
3.学会等名
International Virtual Exchange Conference (IVEC) 2020(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2020年
2020+
1.発表者名
西谷 元
11 %
2.発表標題
留学効果の客観的測定とその応用
由于別末の音曲印刷をことの形の
3.学会等名
3.1EJ2020(招待講演)(国際学会)
011LJ2020(JD]可鸺/例 / (
4.発表年
2020年
:
1.発表者名
西谷 元
2.発表標題
留学/VE/COILのア ウトカムの客観的測定
The second of th
3.学会等名
SIIEJ2021(招待講演)(国際学会)
0111202021(3017時/尺)(閏隊子云)
4.発表年
2021年
1

1. 発表者名
西谷 元
o 7X-1466
2.発表標題
国際教育(留学/VE/COIL)の社会的責任=アウトカムの実現・証明ー学生に変化をもたらすことができるか
3.学会等名
SIIEJ2022(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2021年
4. 75.7.4.6
1. 発表者名
西谷 元
2 7V = 145875
2.発表標題
客観的測定の結果の 活用 (PDCA、事前・事後プログラムにおけ る教育的介入等)
3.学会等名
SIIEJ2021(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2021年
4 V=247
1.発表者名
西谷 元、東矢光代、池田佳子
2.発表標題
を観的測定の結果の活用:グッドプラクティスの紹介
音観り効との治来の治力・プラープラブイへの治力
3 . 学会等名
SIIEJ2022(招待講演)(国際学会)
V : 1-0-2-2- (1月 13 時/ス / (日かナム /
4.発表年
2022年
-V
1.発表者名
Hajime Nishitani, Katie Orr
najine Maintain, Natre on
2 . 発表標題
Measuring the Impact of Learning Mobility Programmes on Employability
management of additing modifier, in agrammod on amprogramming
3.学会等名
APAIE2022(招待講演)(国際学会)
·····
4 . 発表年
2022年
, ,

1. 発表者名 John Dirkx, Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Craig N. Shealy	
2.発表標題	
COIL BEVI Project: Cultivating Globally Sustainable Selves Through Values-Based Assessment	
3.学会等名	
APAIE2022(招待講演)(国際学会)	
4.発表年	
2022年	
1、発表者名	

	2022年
1	l . 発表者名
	Keiko Ikeda, Hajime Nishitani, Craig N. Shealy, John Style
2	2.発表標題
	Applied Global Studies: Connecting International Students Through a Virtual Bridge
3	3.学会等名
	APAIE2022(招待講演)(国際学会)
4	1.発表年
	2022年

〔図書〕 計1件	
1.著者名	4.発行年
池田佳子	2019年
2. 出版社	5.総ページ数
関西大学出版	120
3 . 書名	
大学教育の国際化への対応	

〔産業財産権〕

〔その他〕

_

6.研究組織

	・ W/ プレドロ P4V		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	東矢 光代	琉球大学・国際地域創造学部・教授	
研究分担者	(Toya Mitsuyo)		
	(00295289)	(18001)	

6	. 研究組織(つづき)		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	金子 慎治	広島大学・人間社会科学研究科(国)・教授	
研究分担者	(Kaneko Shinji)		
	(00346529)	(15401)	
	川田 恵介	東京大学・社会科学研究所・准教授	
研究分担者	(Kawata Keisuke)		
	(40622345)	(12601)	
	大膳司	広島大学・高等教育研究開発センター・教授	
研究分担者	(Daizen Tsukasa)		
	(60188464)	(15401)	
	北出慶子	立命館大学・文学部・教授	
研究分担者	(Kitade Keiko)		
	(60368008)	(34315)	
	池田 佳子	関西大学・国際部・教授	
研究分担者	(Ikeda Keiko)		
	(90447847)	(34416)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

「国際研究集会 〕 計2件

(国际则九米公) 前217	
国際研究集会	開催年
国際シンポジウム 「海外留学の客観的効果測定」	2019年~2019年
国際研究集会	開催年
SIIEJ	2022年~2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------